

# 早期乳癌に対するセンチネルリンパ節生検による腋窩郭清省略の検討

吉永 康熙<sup>1)</sup> 平塚 昌文<sup>1)</sup> 巻幡 聡<sup>1)</sup>  
岩崎 昭憲<sup>1)</sup> 白日 高歩<sup>1)</sup> 鍋島 一樹<sup>2)</sup>  
藤光 律子<sup>3)</sup>

- 1) 福岡大学医学部外科呼吸器乳腺内分泌外科
- 2) 福岡大学病院病理部
- 3) 福岡大学医学部放射線科

要約：早期乳癌に対する腋窩リンパ節郭清の省略について，センチネルリンパ節生検がコンセンサスを確立しつつある．今回色素法によるセンチネルリンパ節生検の成績を検討し，腋窩リンパ節郭清の省略の妥当性を検討した．対象は色素法によるセンチネルリンパ節生検を施行した91例である．色素はパテントブルーを腫瘍直上の皮下あるいは乳輪下に注入した．40例の feasibility study の後，患者の同意が得られ，術中迅速診断でセンチネルリンパ節生検陰性であった22例は，腋窩郭清を省略した．センチネルリンパ節の同定率は，最初の20例とその後の71例では60.0%，93.0%と学習効果が認められた．術中迅速病理診断51例中，偽陰性が4例存在したが，うち3例は染色されたリンパ節周囲のリンパ節も含めてセンチネルリンパ節と見なすことで診断可能であった．郭清省略例に局所再発は認めていない．色素法でのセンチネルリンパ節生検に基づいた腋窩リンパ節郭清の省略は，妥当であると考えられた．

キーワード：乳癌，センチネルリンパ節生検，腋窩リンパ節郭清，微小転移